

令和元年度

# 「運営に関する計画」

(中間評価)

大阪市立豊新小学校

令和元年 1 1 月

(様式2)

## 大阪市立豊新小学校 平成31年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した  
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【子どもが安心して成長できる安全な社会(学校園・家庭・地域)の実現】</b> <b>全市共通目標</b> ○平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 ○平成31年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上(H28:87% H29:93% H30:90%)にする。 ○平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。 ○平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 いじめのアンケート調査を定期的に(学期に1度)実施し、当該児童からの聞き取りをていねいに行い、校内いじめ対策委員会において事案を解消していく。 ----- 指標 平成31年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。	
取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 社会や集団生活でのルールを守ることを日常的に全教職員で指導する。 ----- 指標 平成31年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上(H28:87% H29:93% H30:90%)にする。 平成31年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。	B
取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】 区役所(子育て支援室)やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を図るとともに、校内ケース会議で情報共有し、個別支援を行う。 ----- 指標 平成31年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。	
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①1・2学期の校内調査の結果で判断する。 ②職員会議や職員朝会などで共通理解を図り指導を続けてきた。また、日々の生活指導や道徳の時間等でルールとマナーについて話し合ってきた結果、「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目において肯定的に答える児童が92%と、目標を上回った。 暴力行為を複数回行う児童はいない。 ③年度末の校内調査結果で判断する。	

年度目標	達成 状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○心豊かな子どもの育成のため、芸術鑑賞行事（音楽鑑賞）ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施する。</p> <p>○平成 31 年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H28:83% H29:83% H30:85%）にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】 芸術鑑賞行事ならびに多様な体験活動（社会見学）を実施し、心豊かな子どもの育成を図る。	C
指標 年間行事計画に基づき、音鑑賞行事、3～6年生で社会見学を実施する。 平成31年度の校内調査における「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童の割合を85%以上（H28:83% H29:83% H30:85%）にする。	
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①芸術鑑賞行事や社会見学などの多様な体験活動を計画にしたがって実施してきている。しかし、今回の「自分には良いところがある」の項目において、肯定的に答える児童は82%と、目標を下回った。 今後、体験活動後の振り返りをしっかり行うことや、自己肯定感を高められるような声かけを日常的に行うことで、目標達成に向けた取り組みを進めたいと考える。	

年度目標	達成 状況
<b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b> <b>学校の年度目標</b> ○平成 31 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H28:84% H29:86% H30:83%）にする。	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【施策 3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】 学級文庫の充実ならびに図書室活動の活性化図り、児童がより読書に親しめる機会を増やす。 ----- 指標 平成 31 年度の校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H28:84% H29:86% H30:83%）にする。	C
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①定期的に学級文庫や図書室の整理を行ったり、読書週間を 10・11 月の 2 回に分けて内容を工夫したりした。また、読書タイムや 6 年生による 1 年生への読み聞かせ等、読書できる場を増やした。しかし、校内調査における「本を読むことが好き」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 82%で目標を下回った。今後も引き続き児童が本に親しみを持てる機会を増やしていく。また、学級文庫の入れ替えや、図書室の本をさらに充実させる。	

年度目標	達成 状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>○平成 31 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>○平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p> <p>○平成 31 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（H28:76% H29:75.9% H30:72.7%）させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○平成 31 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H28:89% H29:91% H30:94%）にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
<p><b>取組内容①【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> 基礎的・基本的な学習内容の確実な定着とともに、活用力の向上を目指し、個別指導やグループ指導、反復学習、習熟度別少人数学習、放課後学習や家庭学習支援などを行う。</p> <p><b>指標</b> 平成 31 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>平成 31 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上回る児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p>	
<p><b>取組内容②【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> 単元や題材に即して、ペア学習・グループ学習を取り入れた授業デザインを構築し、多くの場面で話し合いの場ができるように工夫する。</p> <p><b>指標</b> 平成 31 年度の小学校学力経年調査における「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目において、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加（H28:76% H29:75.9% H30:72.7%）させる。</p>	
<p><b>取組内容③【施策 5 子どもの一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</b> 実施計画に基づいて、計画的に研究授業および研修会を実施する。</p> <p><b>指標</b> 平成 31 年度の校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 90%以上（H28:89% H29:91% H30:94%）にする。</p> <p>全教員が一人 1 回以上の研究授業を行うとともに、学習指導に関する全体研修会を 8 回以上行う。</p>	B
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①②令和元年度の小学校学力経年調査の結果で判断する。</p> <p>③校内調査における「授業の内容は理解できる」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 90%で目標（90%）に達した。外国語活動研修会を 6 月 26 日、研究授業（4 年）後の討議会を 7 月 3 日に実施した。</p> <p>今後、計画的に研究授業・研修会を実施していく。</p>	

年度目標	達成 状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p>学校の年度目標</p> <p>○平成 31 年度の校内調査における「I C Tを活用した学習はわかりやすい」(H29:95% H30:95%)、 「外国語活動は楽しい」(H29:87% H30:94%) の項目において、肯定的に答える児童の割合をと もに 85%以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
取組内容①【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 I C Tの効果的な活用方法について指導方法（プログラミング学習等）の研究を行い、授業実践を蓄積させていく。	B
指標 平成 31 年度の校内調査における「I C Tを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上（H29:95% H30:95%）にする。	
取組内容②【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】 外国語活動・英語教育の深化充実、モジュール学習の定着を図るため、教員研修を充実させる。	B
指標 平成 31 年度の校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合を 85%以上」（H29:87% H30:94%）にする。	
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①校内調査における「I C Tを活用した学習はわかりやすい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 93%で目標（85%）を上回った。タブレットを用いた授業や、プログラミングの考え方につながる授業が行われ、児童が意欲的に取り組んでいる。しかし、プログラミング学習は、まだ教員間で理解が深まっていない。今後、研究授業等を通して、教材研究を深め、児童への理解につなげていきたい。	
②校内調査における「外国語活動は楽しい」の項目において、肯定的に答える児童の割合は 90%で目標（85%）を上回った。ALT・イーオン・中学校の英語担当の指導等やモジュール活動によって、児童の興味・関心は高く、意欲的に取り組んでいる。今後は、次年度に向けて各学年の学習内容の系統性を考えていく必要がある。	

年度目標	達成 状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p><b>全市共通目標</b></p> <p>○平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。</p> <p><b>学校の年度目標</b></p> <p>○平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（H28:男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント H29:男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント H30:男子 52.34 ポイント 女子 53.13 ポイント）させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進 捗 状況
<p>取組内容①【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>体育の授業において、敏捷性や跳躍力のアップを目指す取組をする。</p> <hr/> <p>指標 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、特に課題である反復横跳び、20m シャトルラン、立ち幅跳びの平均の記録を、前年度よりそれぞれ 2 ポイント（回）、2 ポイント（回）、2 ポイント（cm）向上させる。</p>	B
<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>運動やスポーツに興味・関心が高まり、楽しみながら体を動かすことのできる取組を年間を通して工夫する。</p> <hr/> <p>指標 平成 31 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計得点を、前年度より 2 ポイント向上（H28:男子 48.14 ポイント、女子 48.71 ポイント H29:男子 49.42 ポイント、女子 52.34 ポイント H30:男子 52.34 ポイント 女子 53.13 ポイント）させる。</p>	B
達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>①秋に 2 回目の駅 3 種目の体力テスト（20m シャトルラン・立ち幅跳び・反復横跳び）を実施し、春と秋の結果を分析し、学校全体の課題を測る。</p> <p>②各学年、工夫された体育学習を実施しており、目標達成に向けた取り組みをしてきている。また、体育学習だけでなく、休み時間にも外遊びをする児童が増えてきている。学年で大縄跳びに取り組んでいる学年もあり、児童の体力と意欲向上に結び付いている。</p>	